

阿部貞夫 彫波の世界

阿部貞夫は、1910(明治43)年、東京日本橋に生まれました。生後まもなく留萌に移り住み、留萌中学(現・留萌高校)を卒業後、画家をめざして上京します。アルバイトで生活費を得ながら、本郷洋画研究所で学び、後に木版画を独学するようになりました。

終戦後、留萌に帰り、病身の妻を看病しながら製材所で働き、留萌の風物に取材した版画を制作します。少年時代と戦後の数年間を過ごした留萌は、阿部にとって故郷といえる場所でした。1946(昭和21)年から4年間で100点以上の版画を制作したといい、1950(昭和25)年には、最初の木版画集を発行しています。四季折々の風物を白黒版画にした版画集は、阿部の版画家としての第一歩でした。1952(昭和27)年には、第2の木版画集『彫波』(彫波とは、版木の上の刀跡を意味する言葉)を発行しています。



《月待つ浜》1966(昭和41)年



《樹と人》1968(昭和43)年

1953(昭和28)年、釧路に移り、版画家関野準一郎、刷師の平井孝一の指導を受け、版画家として大きく飛躍し、釧路の街や道東の自然を題材とした版画作品を制作していきます。1958(昭和33)年には札幌に拠点を移し、北海道各地の自然を題材とした作品を制作しました。阿部貞夫が生み出した詩情豊かな作品の数々をご覧ください。



《霧氷の街》1964(昭和39)年